

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 指導教員による履修・研究指導の徹底	→履修相談期間設定・実施の有無、論文の中間発表・論文作成指導の回数	B	B	B	B	A
2. シラバスと授業内容の整合化	→シラバスと授業内容の整合性に関する授業評価の有無、結果分析の有無	B	B	B	B	A
3. 成績評価の厳格化	→成績評価基準の公開の有無	B	B	B	B	B
4. 学生による授業評価を踏まえたカリキュラム改革	→学生による授業評価結果を踏まえた改革の有無	A	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院の学生組織である院生会に対して定期的にヒアリングを行い、研究演習を通じた指導体制の状況につき検証している。年度末の2月には、大学院生の研究促進のため「研究成果発表会」を、前期・後期課程全員の学生を対象に開催している。また、指導教員以外に副指導教員を設けており、研究指導を促進している。社会学研究科委員会にて、指導大学院生への適切な指導と助言を徹底するよう告知している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究成果発表会での成果発表、ランチ・ミーティングの研究発表などを通じ、より多くの指導教員の指導を受ける状況が整えられた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 院生会からのヒアリングだけでなく、ポストGPの後継プログラムである大学院生サポートプログラム(GSSP)内で、大学院生からのヒアリングを進め、指導教員の指導体制について情報収集に努める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各回ごとのシラバスを記載した。授業調査及びヒアリングを行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か シラバスと授業内容の整合性が高まった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も現在の取り組みの維持向上に努める。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか シラバスで成績評価の方法を明記するよう、大学院研究科委員会にて授業担当者に周知している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 成績評価の厳格化について関心を共有できた。しかし、演習科目の場合、受講者がそもそも1名や2名のことも珍しくなく、相対評価を加えにくい。さらなる教員間での情報共有が求められる。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究科委員会を通じ、教員に成績評価の厳格化について周知する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「学生による授業に関するアンケート」を実施し、学生からの授業評価を受けている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か おおむね、学生からの評価は高いものばかりであった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 個別の授業科目のみならず、カリキュラム全体に対するヒアリングを今後行う。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆